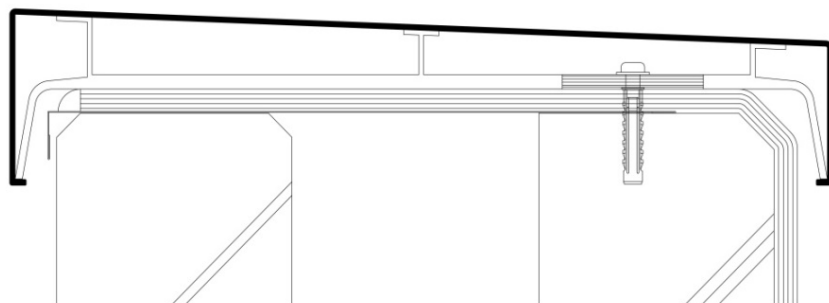
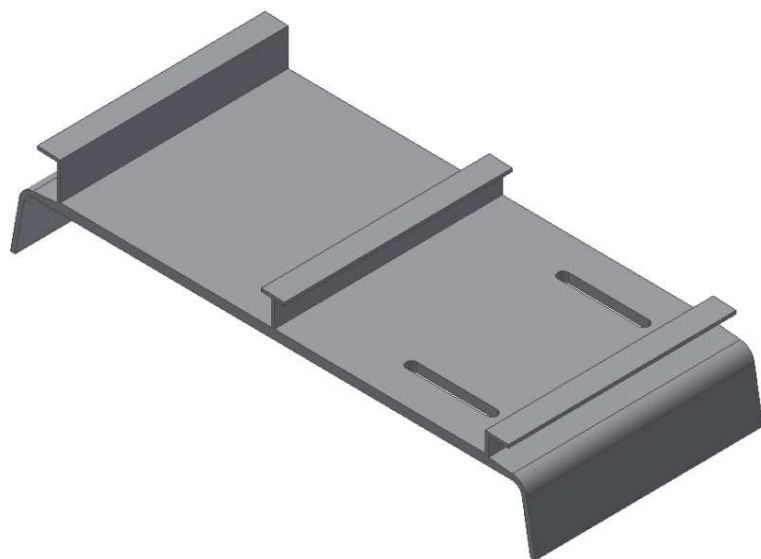


ダブルパラペット用笠木ブラケット 施工手順書

アークラインシリーズ

WP 笠木

Ver4.2023.11



ダブルパラペット用笠木ブラケットに関する注意点

以下の当社標準仕様をご確認ください。

1. ブラケット標準固定間隔に対する耐風圧

1) 下地材がRCの場合

基準風速 V_0 :34m/sの地域において高さ13m(4階建程度)、地表面粗度区分:Ⅲ

2) 下地材がC形鋼下地の場合

基準風速 V_0 :34m/sの地域において高さ13m(4階建程度)、地表面粗度区分:Ⅲ
かつC形鋼の厚み $t=2.3$ 以上

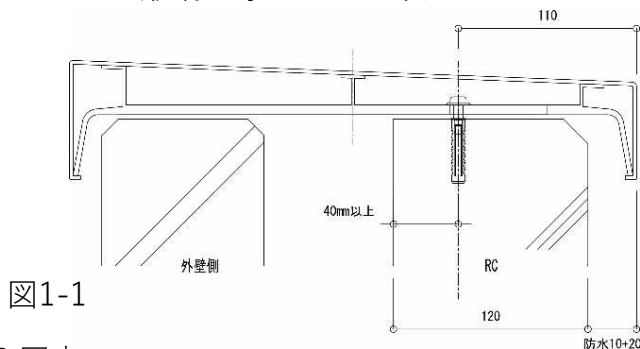


図1-1

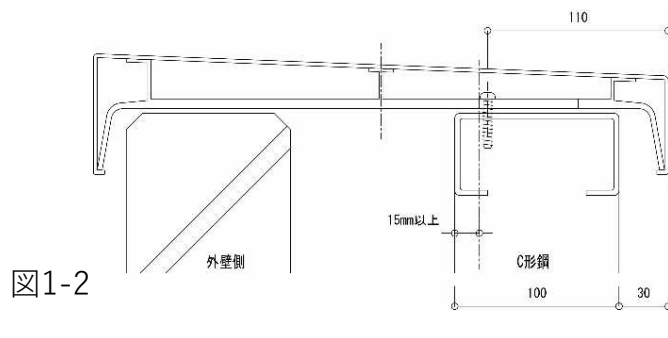


図1-2

2. 固定方法

1) 下地材がRCの場合

樹脂プラグ：フィッシャー社 SX 8×40 使用

樹脂プラグφ8mmとステンレスねじφ6mmの組み合わせ
不陸調整は10mm程度

2) 下地材がC形鋼下地の場合

ステンスドリルねじφ5mm／不陸調整は10mm程度

| 下地材 | アンカー用下穴 | | アンカー (付属品) |
|---------------------|---------|----|--------------------------|
| | 径 | 深さ | |
| RC | 8.0 | 60 | B-M8W |
| 鉄板 ($t=2.3$ 以上) | — | 貫通 | NB-14・15 (SUS5×35~40) |

3. 固定間隔

必要ブラケット数 (個/本：定尺4m)

| 商品名 | ブラケット数/定尺 | 固定間隔 |
|-----------|-----------|---------|
| AUE-275WP | 4個/4m | @1300以内 |
| AUE-300WP | 5個/4m | @950以内 |
| AUE-325WP | 5個/4m | @950以内 |
| AUE-350WP | 5個/4m | @950以内 |
| AUE-400WP | 7個/4m | @650以内 |

4. 当社へお問い合わせください。

1) 上記の標準を外れる場合

2) 躯体と笠木の開き寸法が一方でも30mm以上離れる場合

3) 躯体が斜壁や面取り幅が大きく、笠木裏に風が入る場合

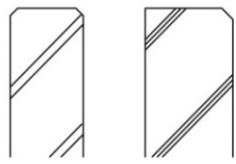
5. 笠木施工前に確認してください。

天端の開口部は止水処理が完了していますか？

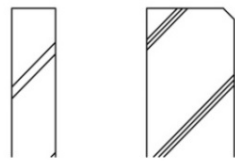
笠木は止水材ではありませんので、取り付け前に止水処理の完了を必ず確認してください。

ダブルパラペット（WP）用笠木について

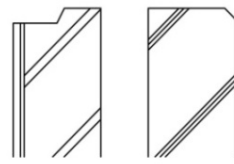
近年急増しているS造の物件で必要となるダブルパラペットの納まりに対応したブラケットを使用した笠木、代表的な納まりは以下の6種です。



ALC + RC

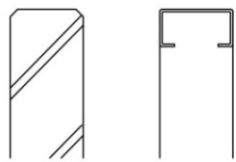


ECP + RC

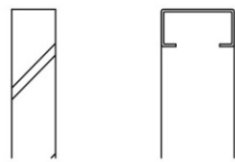


PC + RC

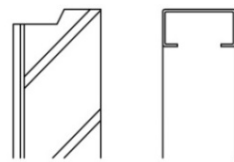
下地がRCの場合



ALC + C形鋼



ECP + C形鋼

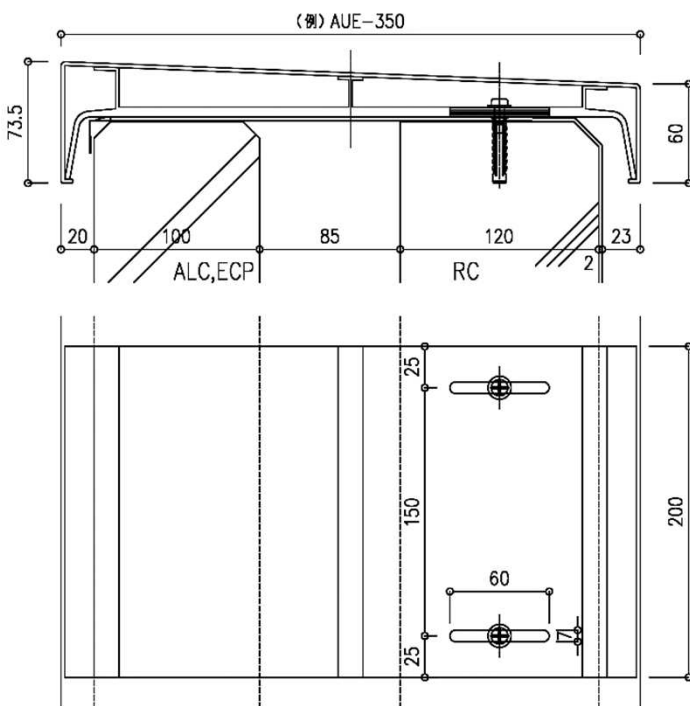


PC + C形鋼

下地がC形鋼の場合

図2-1

地震等の際に外壁と床に繋がった内壁では動きが異なるため笠木ブラケットを両壁に固定した場合、躯体もしくはブラケットが破壊されてしまいます。笠木本体の脱落等の事故の原因となることから、片側(内壁側)で固定するWP笠木を設置します。



WP笠木は左図の様に幅広のブラケットを使用することで片側固定でも耐力を発揮する笠木です。

図2-2

施工時の注意点－アンカー穴あけ編

- ・作業前に必ず施工図を確認してください。
- ・固定強度がブラケット数に反映されるため、当社推奨アンカーをご使用ください。
※弊社製品 ナイロンプラグアンカー【B-M8W】
- ・アンカーの縁あきは40mm以上を確保してください。（図3-1参照）
- ・樹脂プラグ用の下穴はプラグメーカーの指定寸法としてください。
- ・アンカー間は80mm以上としてください。（プラグ長×2以上）
- ・穴あけ後にコンクリートの切粉は十分に除去してください。
- ・アンカープラグはモルタル層や防水層表面ではなく躯体に効かせてください。

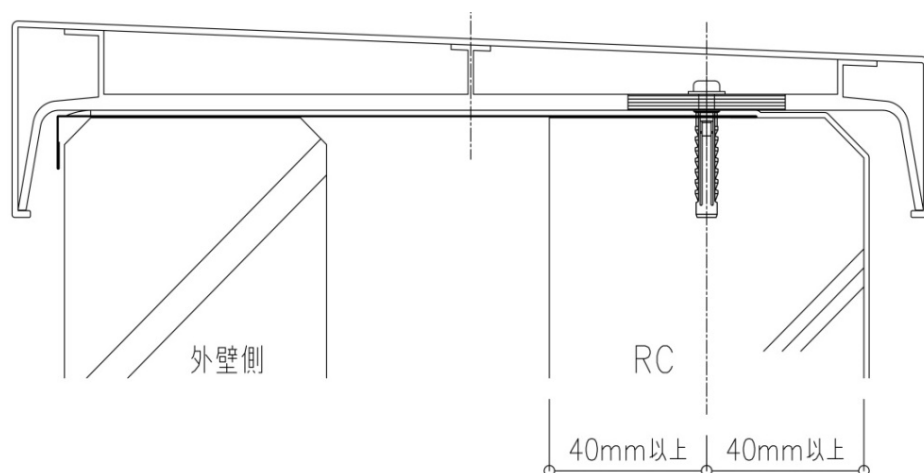


図3-1

施工時の注意点－ブラケット取り付け編①

- ・取り付けはコーナ部より始めてください。
 - ・ブラケット同士のレベルと同時にブラケット自体の短手方向の水平も必ず取ってください。水平ではない場合、笠木表面に打痕が出る場合があります。（図4-1参照）
 - ・レベル調整は10mm程度にしてください。それ以上の時はお問い合わせください。
 - ・水糸はブラケットの水上側と水下側両方にコーナから張ってブラケットのレベルと出入りを確認してください。（図4-2参照）
 - ・躯体表面がモルタル仕上げで厚みが10mm以上の際もお問い合わせください。
 - ・ブラケットは幅(50mmの方向)を必ず水平にしてください。
 - ・防水層に穴を開ける場合、防水材に合ったシーリング材でアンカー頭部をシーリングしてください。
 - ・ブラケットのレベル調整にスペーサーを複数使用した場合、風による振動で抜け落ちる可能性があります。抜け落ちを防止するためシーリング材でスペーサーを一体に固めてください。
- ※スペーサーを半割にして使用した場合はより入念に固めてください。
- ・アンカー部は必ずシーリングしてください。

| 防水の種類とシーリング材の適合例 | |
|------------------|------------------------------|
| アスファルト防水 | アスファルト系シーリング材 |
| 塩ビシート防水 | 変成シリコン系シーリング材 |
| ゴムシート防水 | 変成シリコン系シーリング材 |
| ウレタン防水 | ウレタン系シーリング材 変成シリコン系シーリング材 |
| FRP防水 | 変成シリコン系シーリング材 |

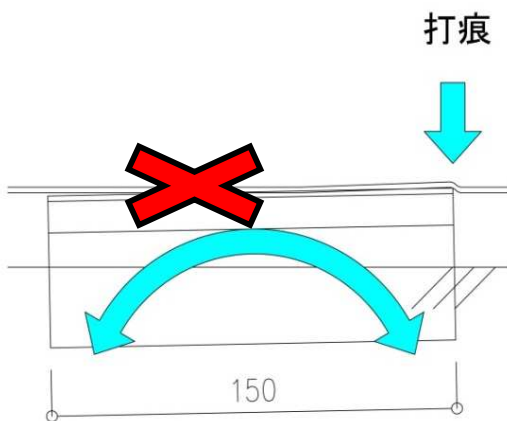


図4-1

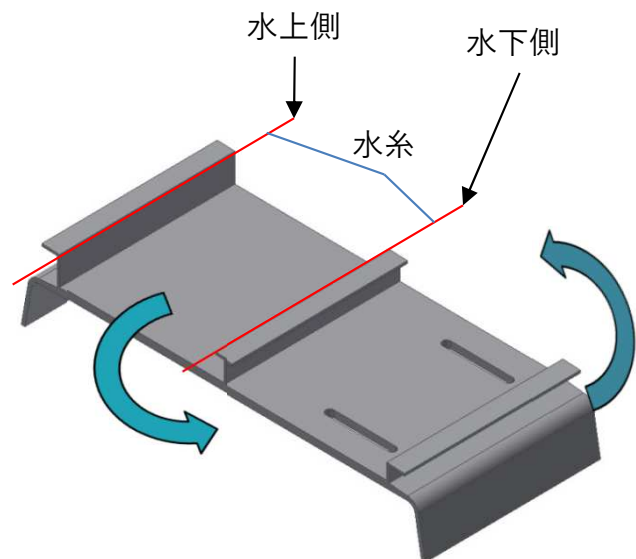


図4-2

施工時の注意点－ブラケット取り付け編②

ブラケットのレベル調整

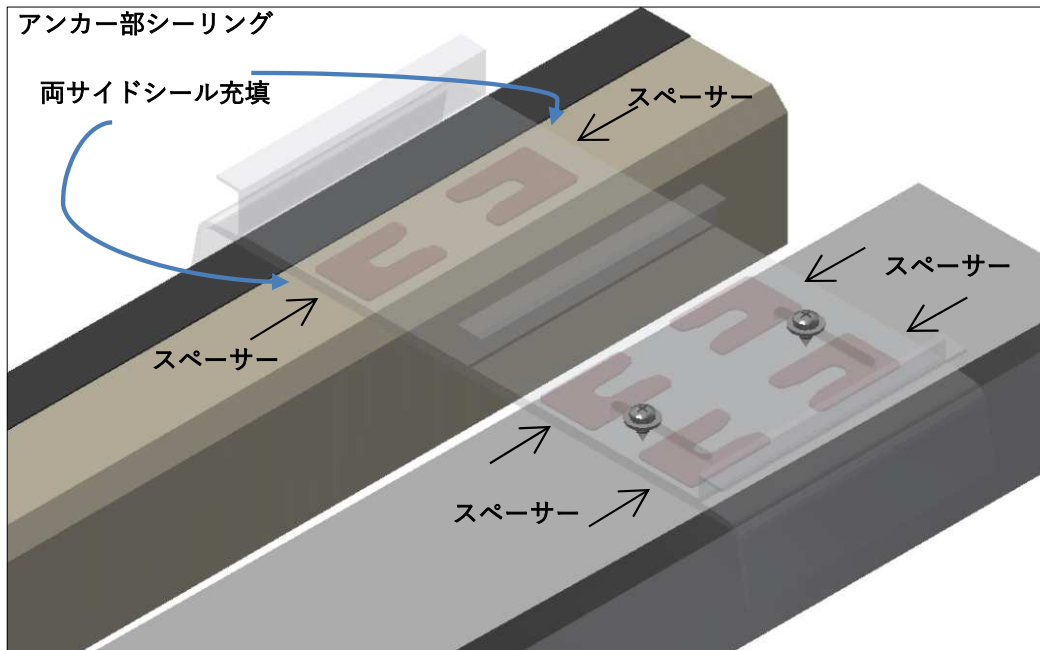


図5-1 ※上図は分かりやすくするため防水層等は省略しています。

レベル調整用スペーサーは図5-1のように、6箇所に入れるとブラケットが安定します。
(ブラケットの下に入れる)

笠木取付用 樹脂製スペーサー 4種類
斜、5mm、2.5mm、1.5mm

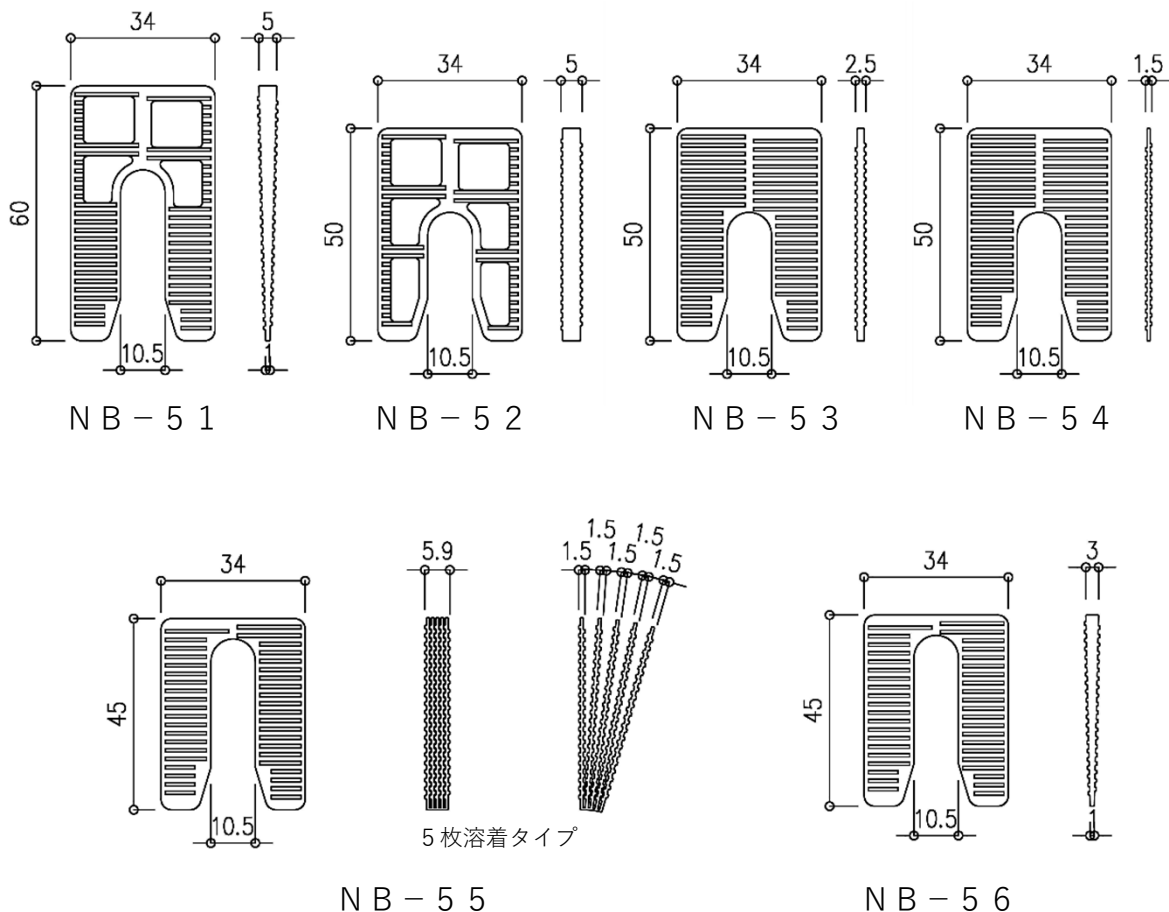


図5-2

WP笠木の躯体レベル調整

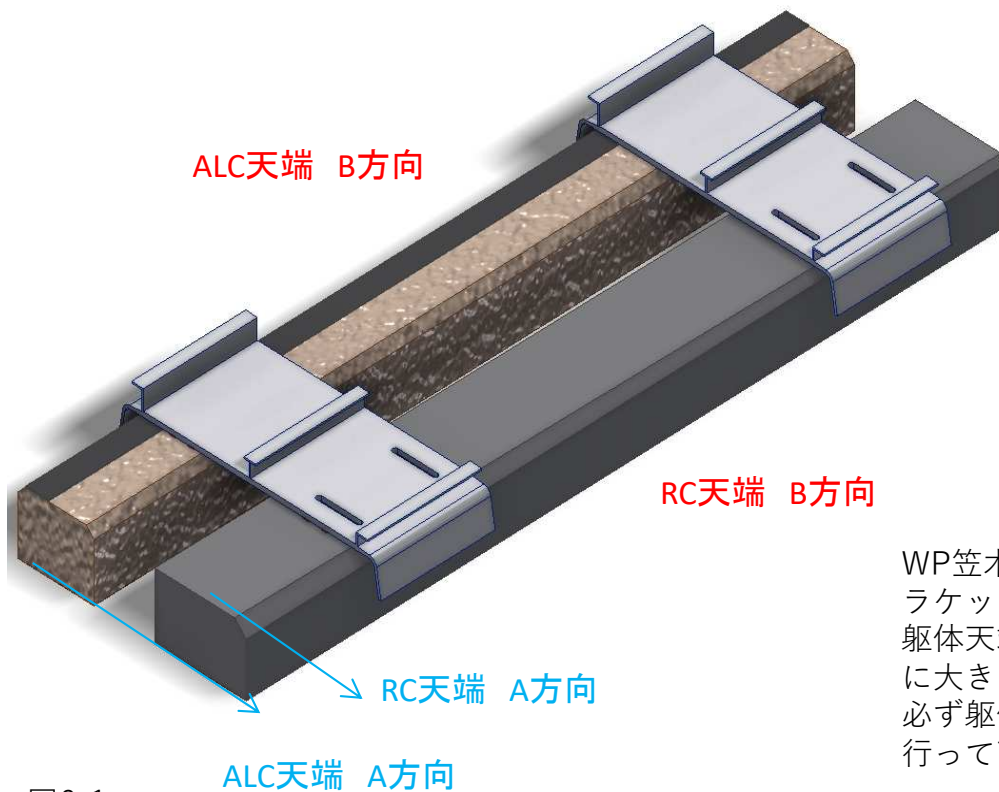
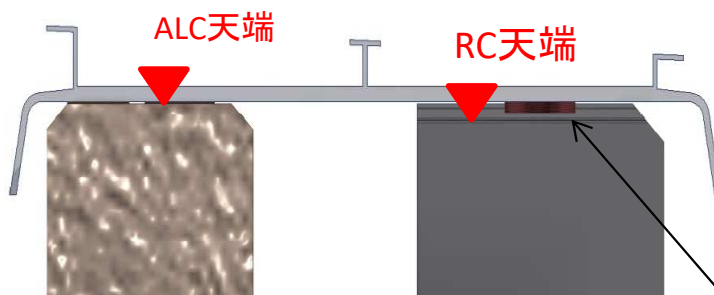


図6-1

WP笠木は幅広（200mm）のブラケットを採用しているため、躯体天端のレベルの違いが施工に大きく影響します。必ず躯体天端のレベル調整を行って下さい。



RC天端がALC天端より下がってしまうと、スペーサーを大量に使用し不陸調整を行う必要があります。（不陸調整は10mm以内）

スペーサー

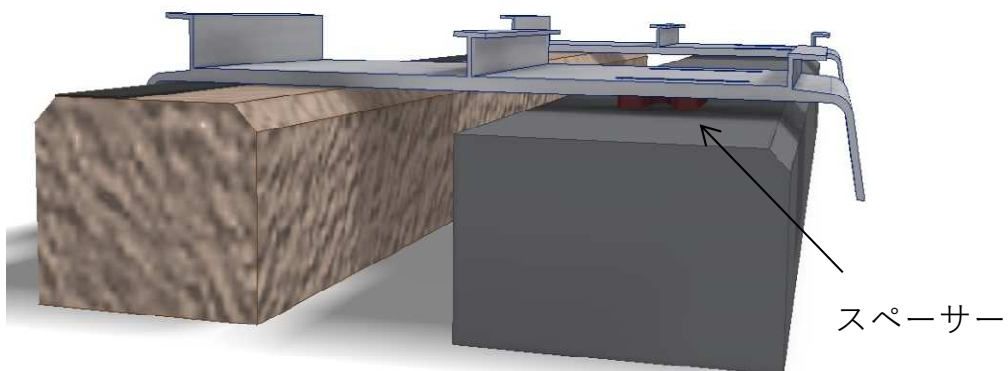
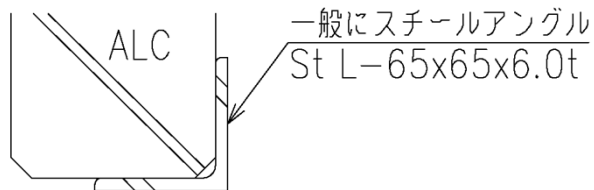


図6-2

スペーサー

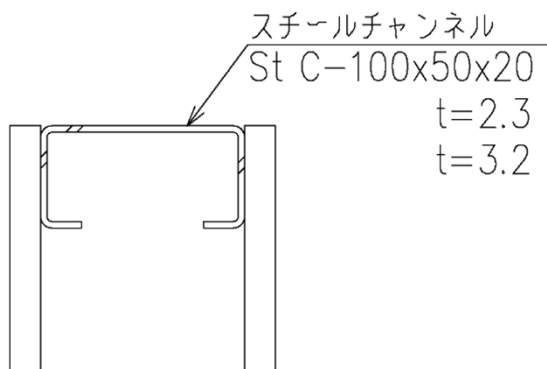
下地がスチールの時の取付ねじの選定について



※t=6mmスチールアングルに下端笠木、天端笠木を取り付ける場合NB-19(ヘックス六角ドリルねじ 6×35ユニクロ)を使用する。



※ユニクロにする理由はt=6mmスチールアングルに対しては負けてしまうのでユニクロ(鉄)ビスを使用する。



スチールチャンネルt=2.3、3.2の場合
笠木取付の時

- ・ B-540H SUSテックドリルねじ(六角)使用
- ・ B-535 SUSテックドリルねじ(なべ)使用